

## 令和 8 年度(第 11 回)入学式 学校長式辞

正門前の竹林ではタケノコが地表に芽吹き、校庭では満開を迎えた桜の花がそよ風に運ばれ、春の息吹に心和らぐ季節が訪れました。先週からの花時雨も一休みしてくれてか、本日この佳き日、京都市立京都工学院高等学校第 11 回入学式を挙げるにあたり、京都市教育委員会事務局をはじめ、学校運営協議会、同窓会、PTAよりご来賓の皆さまのご臨席を賜り、高段からではございますが、厚くお礼申し上げます。

真新しいブレザーに袖を通し、このように凛々しく成長されたお子様の姿に、これまで近くで見守り、支えてこられた保護者の皆様には、さぞや感慨深いものがあるかと存じます。本日ご列席をいただき、こうして盛大に入学式を挙げることを、大変有難く心よりお礼とお祝いを申し上げます。

さて、入学を許可いたしました 233 名の新入生の皆さん、入学おめでとうでございます。皆さんは、中学校までの義務教育を終え、夢や希望を叶えるべく理工系専門学科の本校を選択され、入学者選抜という試練を見事に乗り越えて本校へ入学されました。教職員一同心から歓迎し、お祝いを申し上げます。

京都府下唯一である理工系の専門高校である本校は、開校以来、時代に先駆けて、STEAM 教育(科学:Science 技術:Technology 工学:Engineering デザイン思考:Arts 数学:Mathematics 関連付けて学ぶこと)を重点においた教育活動を展開しています。また、令和5年度からは、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に採択され、先進的な科学技術、理数教育を通じて、生徒の科学的な探究能力等を培い、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための研究開発に取り組んでいます。

先ほど、披露された校歌の2番に「ホモ・ファーベル」と歌詞があります。詩人の谷川俊太郎先生からいただいた大切な言葉です。ヨーロッパの哲学者によるラテン語の造語でモノを創造し作り出す工作人(こうさくびと)と訳されます。「実践で身に付けた知恵から道具を作り出し、工夫して広く使用する」人間観を要約したものです。さまざまなことに興味関心を持つ好奇心旺盛な入学生が、本校で「アイデアをカタチに」する学びを得て、未来を創り続けるホモ・ファーベルとなって欲しいと願い、SSH事業の研究テーマにも「世界で活躍するホモ・ファーベルを育成するための研究開発」と設定しました。STEAM教育を展開・推進する本校にとって重要な指導目標です。

今、我が国では、急激な人口減少・少子高齢化による労働力不足や、地方経済の衰退、デジタル化(AI・DX)の進歩、国際情勢によるグローバル競争力の低下といった大きな環境変化が起こっています。年には 15 歳人口が約 3 割も減少することが見込まれており、現在の人材供給のトレンドが続けば、AI・ロボット関連などのいわゆる理工系人材が大幅に不足する「労働力需給ギャップ」の発生が指摘されています。

AI 時代が到来し、覚えた知識の量や速さではなく、「自ら問いを立てる力」、「他者とともに新たな価値を創り出す力」ことが評価される社会への転換期となることでしょう。国をあげた理

数・デジタル的な素養を持つ理工系人材の育成が急務とされ、探究・文理横断・STEAM教育の充実、産業界と連動した担い手の育成が本校に求められています。そのような社会背景のもと、常にプラス思考で生徒自らが主体的に行動できる学校づくりを目指して、スクールメッセージを掲げてきました。

本年度のスクールメッセージは、『常にプラス思考で～今できることに先んじて挑戦してみよう！～』です。好きを育み、得意を伸ばすチャレンジは、次なる好奇心や探究心を呼び起こす重要なメカニズムとなり得ます。本校での三年間は、失敗や挫折を繰り返しつつも、自らの意志と判断で粘り強く行動する主体性と、多様な他者と協働しながら挑戦する社会性を培う時期でもあります。また、高校生活で得られる価値は、通知表に残るものだけではありません。挑戦し、迷い、時には回り道した経験こそが、人を成長させるのだと信じます。皆さんの高校生活が充実したものとなるよう、『常にプラス思考で～今できることに先んじて挑戦してみよう！～』を実践してください。教職員一同、実践する皆さんを最大限サポートします。

あらためまして保護者の皆さま、お子様のご入学、誠におめでとうございます。高校生活では、あらゆる場面でお子様は悩み、迷い、考え、判断しなければなりません。お子様が、自らの未来を切り拓けるよう、これからもお子様の成長を支え、見守っていただきますようお願いいたします。これからの教育は、学校のみならず、家庭、地域、行政が連携して進めていくことが益々重要になってきます。まずは学校と家庭が円滑なコミュニケーションの中で共通理解があつてこそ、お子様はより豊かな経験知を享受し、将来に向かって安定した土台を築くことができます。それぞれの役割を認識し、お子様の成長という同じベクトルで互いに協力し合っていきたいと考えています。

結びに、新入生の皆さんのこれからの輝かしい活躍と、本日が限りない成長への大きな節目となることを心から祈念して式辞といたします。

令和8年4月8日

京都市立京都工学院高等学校 校長 谷口 正朋